

第2期宮城県特別支援教育将来構想実施計画（前期）における 狭隘化対策の検討について【 県南地域・仙台圏域 】

1. 将来構想・実施計画での位置づけ

- 第2期宮城県特別支援教育将来構想（令和7年2月策定）
 - 目標2 誰一人取り残さない学校づくり
 - 1 多様な教育的ニーズに応じた学びの場の実現
- (1) 県立特別支援学校における教育環境の整備
 - 今後の児童生徒数の推計や既存校舎の改築など老朽化対策に関する計画等を考慮した上で、県立知的障害特別支援学校の狭隘化の解消を図るための対策を検討する。
- 第2期宮城県特別支援教育将来構想実施計画（前期） ※R7～R11（令和7年3月策定）
 - 県立特別支援学校の施設整備
 - 3 今後の整備計画
 - (1) 狭隘化対策 ※該当項目を抜粋

学校名等	内 容
県南地域における特別支援学校の在り方検討（角田支援学校・角田支援学校白石校・山元支援学校・船岡支援学校）	県南地域における知的障害特別支援学校の狭隘化の解消を図るとともに、経年により老朽化が進む船岡支援学校の校舎等に関する対策を講じる必要があるため、今後の児童生徒数の推移や各学校の配置関係、校舎等の建物の状況などを踏まえた上で、県南地域における特別支援学校の在り方について検討していく。
仙台圏域における余裕教室・遊休施設等の活用検討（小松島支援学校・利府支援学校）	仙台圏域における知的障害特別支援学校の狭隘化の解消を図るため、児童生徒数の減少等を背景とした、県立高校や市町村立学校の閉校後の跡地や余裕教室、その他県有財産の遊休施設等を活用し、特別支援学校の分校を設置するなど教室等の整備を検討していく。

2. 現在の状況

- 県南地域について
 - ・狭隘化状況（設置基準充足率） 角田支援学校82％ 角田支援白石校29％
 - ・老朽化状況（船岡支援学校） 校舎S47年築（53年経過） 寄宿舍S45年築（55年経過）
- 仙台圏域について
 - ・狭隘化状況（設置基準充足率） 小松島支援学校64％ 利府支援学校89％
 - ・令和7年4月の小松島支援松陵校の高等部設置・本校化により、両校の狭隘化状況は若干改善したものの、更なる対策を検討する必要がある。
- ※ 知的障害特別支援学校の児童生徒数は今後も増加していく見込みであり、現時点では令和14年度頃にピークを迎える見込みとなっている。

3. 検討の進め方

- ・庁内（県立学校教育改革推進本部）で対応方針案を検討
- ・審議会委員による実地調査での意見等を考慮
- ・庁内検討案を作成後に審議会にて説明。意見等を踏まえ内容を修正の上、対応方針を決定

4. 今後のスケジュール

- ・令和7年6月～ 対応方針案の検討
- ・令和8年2月 第2回将来構想審議会にて庁内検討案の内容を説明
- ・令和8年度 審議会での意見等を踏まえ内容を修正の上、実施計画に反映（計画改定）